

## JASRI ご挨拶

(財)高輝度光科学研究センター

副会長 平野拓也

SPring-8 はご案内のとおり、昨年で運用開始以来 10 年を経過し、その間、延べの利用者は約 7 万 7 千名、実施しました課題が 1 万 2 千件を超えているといった状況でございます。そしてたいへん目覚ましい成果が上がっており、ご同慶の至りであります。

この SPring-8 の施設を計画致しましたのが 20 年前でございますが、その時代では放射光はもとより加速器施設を民間の方が産業利用されるというのは、なかなか想像しにくいような実態であったと記憶しております。しかし政府のトライアルユースや、産業界の研究者の方々のご努力により、産業利用は今日では SPring-8 全体のシェアの 20%に達しているところでございます。その中で、企業数は昨年でだいたい 180 社に達したと認識しております。そして使用の形態も基礎から製品の開発までということございまして、たいへん幅の広いテーマが実施されております。これは世界三大放射光施設の中でも日本の著しい特色でありまして、国際的にも評価されているところでございます。

設備面のことを申し上げますと、昨年度 XAFS に特化した共用ビームラインに加えまして、既存の共用ビームラインを産業用施設に転用し、産業利用の共用ビームラインを 3 本体制に強化致しました。さらに現在建設中のものが 4 本ありまして、そのうちで豊田ビームラインとフロンティア・ソフトマターのビームラインの二本が産業用専用ということになっております。この厳しい時勢において日本の産業力の強化、国際競争力の強化に向けまして、産業利用の益々の充実は不可欠であります。私ども JASRI といたしましても、産業界のニーズに応えまして、できるだけ広く、また簡便に利用していただけるよう努力を続けて参る所存でございます。

それから SPring-8 を取り巻く最近の状況では、第 3 期の科学技術基本計画において国家基幹技術というのが決定されております。それが五つ選定され、そのなかに SPring-8 に併設する X 線自由電子レーザと、理化学研究所を中心に進めております次世代スーパーコンピュータの 2 つが含まれております。いずれも兵庫県に建設が進められており、X 線レーザのほうは 2011 年に運用開始、コンピュータのほうはその翌年に運用開始となる計画になっております。この二大プロジェクトが SPring-8 と同じ関西地区に設置されるということは、これはまた大きな意義のあるわけでございます。合わせまして、国家基幹技術に匹敵するものとして、日本原子力研究開発機構 (JAEA) と高エネルギー加速器研究機構 (KEK) による共同プロジェクトの J-PARC が茨城県東海村に整備が進んでいます。私も昨日 J-PARC を見に行きまして、バイオ系あるいは物質系の検出器の整備も順調に進んでいるようです。その中で、産業利用のメンバーも組織されており、SPring-8 を利用するメンバーと相当な数で重なっているということで、日本の三つの大きなプロジェクトが産業界に益々活発に使われるようになります。どうぞこれからもこれらを連携して使って頂いて、研究開発の効率上がるようにご協力いただきたいと思います。

最後に、ここ財団についてですが、ご案内のとおり公益法人の改革三法というのが制定されまして、この 12 月からいよいよ施行の段階に入ります。私どもも新しい姿の財団に衣替えするべく、準備を進めているところであります。いずれにいたしましても、最近の独立行政法人あるいは公益法人に対する世間の風当たりもたいへんに強い中で、私どもの経営もたいへん厳しい風が吹いているわけでありまして、しかし、こういう技術開発あるいは科学・サイエンスの面での発展に活用するというのが日本の国益にかなうわけですから、私どもも歯を食いしばって頑張っていきたいと思っております。どうぞひとつ皆様方、今後とも財団の運営につきましても引き続きご理解とご支援をお願い致しまして、私の挨拶とさせていただきます。